

里見八犬傳

拾九編

五十



18
709
102



曲亭馬琴著

明治三六年
十月九日
購求

第十九輯

八犬傳

東京名山閣版

遠門
709
102

南總里見八犬傳第九輯卷之五十

東都 曲亭主人編次

第百八十回上附録目

一姫一僧死生栄貴を等くを
 孝感力藝詠歌奇異を賛ま
 却説扇谷山内の両管領
 使能谷二郎左衛門尉直親の既歸京の事あり是より定正顯定の使者と
 室町殿へあつて罪過因免と辨謝し奉らんとて定正の使者白石城へ重勝
 顯定の使者齋藤左兵衛佐高實兩家の伴當甚からむ隨即直親不相
 俱して明日啓程を致すと云ふの日直親より快船の使をりし勅使代秋條廣
 當不件の美を告りかど廣當の敢ひを先其使をかへ遣りて却大江親兵衛
 と登崎照文と招れよせて告る不件の美をりてと聲を低て又いふ熊谷歸

八犬傳九輯卷之五十

文藝堂藏

京の告あれども。這回ハ咱等他と一路見不倣るべし。何と云ふ他ハ兩管領の使者と
俱し。我ハ是勅使代也。且各と伴ふれば他が下風不立ちたり。あとの四五
日と歴々歸路不赴す。思ふ先きの我を安房殿へ宣し。あつた。親兵衛
も照文も一議不及む。諾るひ。退りて先兩家老と七武士等不告知らせ。却一同
義成主へ那議を傳え上り。か義成王點頭て然ら。我と義通の名代也。照文
兼帶たる者。八武士等ハ受領の拜礼不上洛せ。あるべし。但老館義実の
御名代也。何人を欲得参上。宣し。御意を伺ひ。え欲と問れて親兵衛照文ハ阿と
応々共侶不膝と找め。宣し。其美往日老館の御意と兼りし。ゆひは
這回上洛の御名代也。大こそ相應り。か。我ハ久し。又采門見。非如升進の
朝恩ありとも。義成義通と同ト。か。且、大に千餘年。仍脚ハ東の八箇
圍の。も。皇城の地を踏され。折ら。あ。と。仰られ。ひ。と。の。ハ。義

成王又點頭て有理其御意こそ且取妙。然ら。大を召べ。とい。ハ。照文
答て。否。那法師ハ東西御和睦の終びを宣上。と。方。僅。参。り。あ。れ。と。傳。え。る。が。遠
侍。不。り。や。ゆ。え。と。告。れ。ば。義。成。主。微。笑。て。開。き。幸。の。め。か。疾。召。り。と。吟。吟。の。後
方。不。り。近。習。の。毎。心。も。果。を。身。と。起。り。て。次。の。間。投。て。退。り。ける。姑。且。して。大
法師ハ引れ。君邊不。ま。けり。當下辰相清澄照文も。大。士。等。も。卒。と。なる。不。願。て
席と譲り。大。法師ハ恭。く。義。成。主。不。拜。見。して。和。睦。の。終。び。と。宣。し。を。あ。ぞ
親兵衛照文執合。して。師。父。ハ。い。ま。知。ぬ。目。今。倭。々。の。仰。ひ。ひ。と。件。の。一。議。を
告知。され。ば。大。ハ。所。々。眼。と。睜。て。開。け。難。美。の。御。説。之。出。家。人。か。い。り。て。各。位。と。共。侶。不
然。る。暗。が。り。御。名。代。不。立。く。京。師。へ。参。る。死。と。思。ひ。ひ。と。我。身。の。昔。と。え。ら
へ。れ。必。死。の。罪。と。宥。め。ら。れ。て。頭。髪。等。と。首。不。換。さ。せ。ぬ。い。老。侯。の。御。大。恩。を。今。さ。り
空。不。仕。ら。况。今。那。君。の。御。名。代。不。擇。れ。ハ。生。甲。非。支。あり。と。の。ひ。つ。べ。縦。水。火。の中。を。も

辨ひまらるる不義不忠之脚談美りひぬ参るべしと縁返り々谷直忠義
成主致びく然らば事既小急入照文へ明日、大をねて瀧田へまゐりて老館小の
義を具小安え上く猶脚言を請まらね親兵衛信濃下野等自餘の犬士も
共侶小逆旅の準備といそぐべし又六郎兵庫助へ朝廷并小室町殿へ献るべし東
西と有司小課て調達ましと言送もるく宜はれれば大家齊一言兼してうち連
立てを退かける。左右より程小暑熱弥増六月五日の朝秋公條將曹廣當ハ
明日の旦用ハ當所を退りて歸京ましといふ告ありし如義成主ハ又親兵衛
照文といく餞別の人情あり去向ハ洲崎の港口より相摸る大磯へ投渡して
東海道を上りもくべしと豫定せられしが大江親兵衛犬塚信濃犬阪下野犬
山道即犬村大学犬川莊小犬田豊後犬飼現ハ兵衛等ハ蚤崎照文、大
法師と皆廣當ハ相俱りて出船の纜と解まきと約莫這僧俗十名の伴

當ハ胡意思界してまらるるを鏡内葉四郎後岡猿八直塚紀二六漕地喜勘大を
首めて輕卒奴隸夫役あり廣當の從者と俱ハ百五六十名許るべし六月六日の
早天ハ王僕巨舫うち乗りて大磯と投て漕まら早涼ハ順風とてその日
亭午の時候小件の浦小まよければ這里より船と洲崎へ返りて陸路と西へ赴
く小貌姑峰足柄ハ胤智が故御と伊豆ハ莊小の故園とれば有轂系小懐舊の
情をたふさげ徳而日歩と夜小歌りゆくと十餘日小して障ることをく京師小
來小けり登時秋篠廣當ハ室町殿へも朝廷へも返命と奏せんとて別れ其
方小赴たわび大照文ハ大士等ハ三條頭小歌店と求めて馳く熊谷が宿
所小ぬたて義實義成義通の名代、大照文並ハ大士等東西和睦恩命の
御答又君臣拜任の御礼小参上の義を告り直規則對面とら其上洛の
速るると勞ひて明日室町東山の両脚所へ参上るべし其進退を指揮あり

且扇谷山内の使者白石重勝齋藤高實の拜礼の事果て大昨日帰
函を許されしが岐岨路と東へ退りて。徒れが各も遅参まざるべしと期を推
く。丹ヶ儘旅宿へ返されり。然るに次の日、大照文八犬士等俱朝服と整
へて伴當夫役を従へ。己牌の左側小室町殿へ参上りて。里見義實義成親
子の名代の使者並小家臣八犬士等謝恩の爲小上洛の美を望え上て義成王の
呈書と拜任の執事多種を進らせり。大照文八犬士を正廳へ召寄せ管領
島山政長對面あり。熊谷直親執達あり。當下政長ハ、大照文八犬士等
うち向ひて義實義成父子の忠信善政と八犬士諸臣の勤功を先譽す。今日
も汝達將軍家義尚拜見の誼を饒さる。上申昨日より御欠安とぞ。其折を
目今の誼及れど且汝達が参内も異日の御沙汰あるべし。宿所へ退りて其折を
俟たむべしとあり。大照文八犬士等先度不懲りて妙すべしと思ふ。元辭

難て只得唯々と承まつりて退りて。馳々東山殿へ詣りて東西と献するも。其か
ら其歸路の管領政長及評定衆の諸郎をうち巡りて。献残の人情と齋
まるも亦差あり。諸礼やうな事果て三條の宿所へ還りしより日と申承れ
ども御沙汰るれば誰れ逗留の徒然不堪ざるべし。大法師の炎暑を犯
きて。日毎々々小歇店と出て。浴内浴外へへさし。日枝鞍馬愛宕の山
或は此赤野の大徳寺に参禪して。一休和尚の迹を尋て。靈山靈地名所舊蹟
不至る限る。大塚大坂自餘の犬士も又照文の送代の小杖を京師の名
所不曳ども。獨大江親兵衛の。京童が少知りて。靈虎射け。勇少年が復
來て在ると觀るべし。その他分るを等とせし。かばうるさく思ひく。宿所小在り
他の京師去歲の秋より逗留久かりければ。自餘の犬士も同トから珍ら
か。故もあるべし。徒徒日日を過し。十餘日ある。朝廷の秋條廣當

奏聞せし所召見義成仁義善政并八犬士の忠孝智勇其淵源伏姫の
孝烈神靈の致所且、大法師が十餘年の約脚勤苦の利益をりて八
犬士と素ゆり見の家臣不倣あり。他が出家堅固の功德都佛意不稱
ふべし事及養崎照文が年来招賢の使して功多かり。事多ても廣當が
安房の稻村も人の噂ふ少知る処正かりける其顛末の奇くも又妙るれ
帝と首なり。閑白殿下殿上人地下の毎至るまで疾其十個の僧俗と見ま
くりし思召か。屢室町殿へ他が参内を御催促ありけり有徳一程不義
尚公の病着瘥りぬ。先里見の使者毎と参内させ後不當御所へ
召まへと。則管領政長より、大照文八犬士等不の異を下知あり。か
、大照文犬士等八次の日朝服と敕正。且伴當夫役不臨時の調育を捧
げさせ。南大門より参内。秋條廣當案内不立。御階の下不参。参當

下、大照文ハ義實義成の奉獻の上書と當職の辭表を口呈され。執
奏の公卿受命り。且仰き義あり。照文、大ハ左少將と治部卿の名
代るれ權不外殿を許させぬ。又八犬士等の陪臣也。且自分の拜礼られ
とも國の爲ハ乱を檢ぬ。或ハ靈虎と對治して宸襟を休め奉りける。其
功共ハ鮮少る。是亦權不外殿。擬せらる。俱ハ天不五を下されける。其後仰
依るべし。是亦權不外殿。擬せらる。俱ハ天不五を下されける。其後仰
必さる。里見左少將其父治部卿と君臣新恩の官職を辭身らさる。欲
まら。勅許あり。今より。後君臣俱不宜。前官たる。死者也。就て左少
將の女兄伏姫の孝烈。死後ハ屢神靈と顯して祐けて其國ハ大功。あ
り。事又、大が多年約脚の事。今茲ハ水陸施餓餓の折法。驗利益。揚
焉。り。秋條將曹廣當が奏聞。中。睿感特不淺。故ハ伏姫を

齋いっ於とやまて富山とやまの神くま不み做おぼませく、大法師おののを推おの登のして大禪師おの不み做おぼませく。宣下せげあり。如ごと旃ご最ごも畏おそれ帝みかど宸み翰みと深こさをあり。富山とやま姫ひめ神社しんじとの五ご大字だいじの勅ちやく額がくと賜たまり。且かつ、大禪師おのの位ゐ記きと僧衣そういと恩賜おんみあり。八はち犬士いんしと照文ていぶんの巻まき絹きぬ各おの二に巻まきをを下くだされける。定まこと小おの異例いれいの朝恩あそんるべ、大照文おほていぶん八はち犬士いんしの俱とも不み戰戰せんせん兢きん兢きんと拜まがり。ちつろつ。欽きんびありて。宛天まの浮橋うきはしを渡わたり果はせ。心地こころを被おほれ連つれてを退まがり。然しかば。日ひ関せき白殿はくでんと首くびを百官ひやくくわん東帶とうたいの袖そでと連つれねて。是これを觀みる者もの尠すくか。帝みかども珠簾しゆれんの裡うちより。那な毎ごとを尠すくして。ち合あ笑わらせあり。然しかば。又またの次つぎの日ひ、大照文おほていぶん八はち犬士いんしの室町殿むろまちでん詰つで。義尚ぎしやう公こう不み見けん參さん。管領くわんりやう政長せいぢやう評定衆へいぢやうしゆ諸侍しよじ。熊谷直親くまがひなほちか不み至いたるまで。威正ゐせい廳でん不み出仕し。里見りみの毎ごとと召めよせらる。室町殿むろまちでん着坐ぢやくざの時とき管領くわんりやう政長せいぢやう奉ほうりて。大照文おほていぶん八はち犬士いんしの台命たいめいを傳つたへる。房州朝武ぼうしゆあすけの恩命おんめい不み從したがひ。ちつろつ。定正ていせい頭かぶ定ぢやうと和睦わくむ

神妙しんめう之の弥善政よぜんぢやうと施せ。隣國りんこくと和順わじゆんして東國とうこく泰平たいへいの功こうと行ぎやうむ。仰おほ出ださる。且かつ脚教書きゃくけいしよを渡わた。歸國きこくの暇ひまと賜たまり。義尚ぎしやう公こう豫よより欲ほし。あふりありて。八はち犬士いんしの武藝ぶげいと試し相あて。殊こと不み勝かれる者ものと留とどめて京師きやうしの折城せぢやうあつべ。と思食おぼ食くらければ。京家きやうけの武士ぶし近習きんじゆの杜校とがうも。那な支しを忘わすれ能よく。娼ぢやうとて迭代ていだいり不み讒せん。傾かたけ宣のたまひ者もの。遂つひ不み其その到いたるを停とどめられて。歸國きこくを許ゆるし。あり。且かつ。大の時おほのとき管領くわんりやう政元せいげんの當職たうぢやくと罷たられて。本領ほんりやう阿波あ不み在あり。八はち犬士いんしの皆みな幸あゆ小恩こおん怨おんの間まを免まれて。安房あへかり。仍なほのそる。伏ふ姫ひめの神號しんごう勅額ちやくがく。大禪師おのの僧官そうくわんの思おもふ不み優ある。朝恩あそんる。小こ勢せいひ勇ゆうままささる。廣當くわうたう直親ぢやく不み別べつを告つて。次つぎの日ひ。二に條じやうの歌うた処ぢよを立た去さる。伴當ばんたう夫ふ役やくと從したがひて。岐き岨しゆ路ぢよと安房あへ。大おほ禪師ぜんし不み做おぼされ。と敢あて。心こころを。あら。思おもひ。任まかせ。而しかも。一ひと僧そう九く士しの主僕しゆはく百十ひやくじゆ數名すうな。東とうと投なげ。其その路ぢよ只ただ一日いちにち。又また日ひ歩あむ。

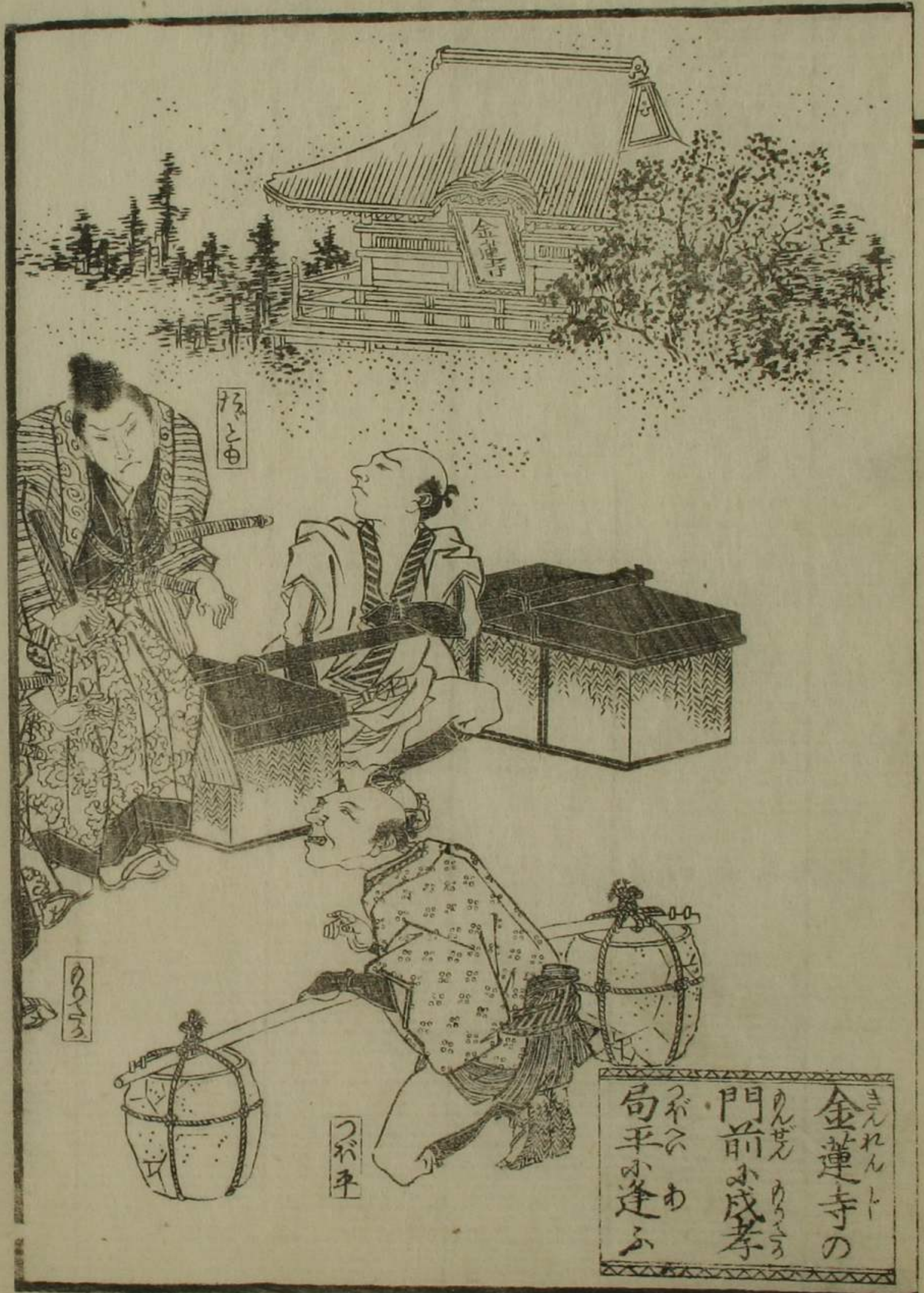
八犬傳九傳卷五十一

六

文庫

夜ふ歌り。美濃の垂井を過る時、大塚信濃、大照文と自餘の七武士
等と喚留りて、ここ。這裏る金蓮寺、在昔嘉吉元年五月十六日、春
王安王君御事ありし時、我大父大塚匠作三成、其御終焉を見らるる堪む
兵を敵多し血戦して、竟小戦殺してける。我父番作一成、當時少年より
けれども、忠孝武勇小匠、かねて當日群集の中、小在り親と援け、跳出
け、兩公達を創りける。牡崎崎某甲と敷を捕りて、春王安王君の御首
級と父匠作の首と奪て、身兵を殺脱け辛くして、信濃路小走り、密獄
大井の間、小道場の墓所、小三級の首と情地小瘞めなり。我身、
歳より、時親の昔話、小夢知り。今料らば、這地を過れば、誘立り。故
中迹を見て、ゆくべし。と、小大家諾て、あるべし。と、心々、と、兩三町中、て、こえ
れば、一座の梵刹ありて、其之門、掲げらる遍額、小金蓮寺と書いたれば、向ても

あるに、いぬつ。大塚と先、みま。大家寺内、い。多き時、た。但見東、あ。り
あて、このよのよをぢあま。年、ま。餘、ま。賤、ま。夫、ま。の、ま。装、ま。部、ま。俗、ま。と、ま。兩、ま。箇、ま。の、ま。小、ま。瓶、ま。と、ま。膝、ま。着、ま。る、ま。杖、ま。を
肩、ま。より、ま。ち、ま。掛、ま。つ、ま。遠、ま。く、ま。事、ま。程、ま。八、ま。大、ま。士、ま。と、ま。見、ま。出、ま。し、ま。け、ま。ん、ま。の、ま。之、ま。走、ま。り、ま。近、ま。づ、ま。り、ま。大、ま。塚、ま。
信濃、ま。より、ま。ち、ま。向、ま。ひ、ま。恐、ま。る、ま。り、ま。問、ま。は、ま。れ、ま。這、ま。刀、ま。袷、ま。の、ま。御、ま。中、ま。小、ま。安、ま。房、ま。の、ま。里、ま。見、ま。殿、ま。の、ま。御、ま。家、ま。臣、
ある、ま。大、ま。塚、ま。主、ま。の、ま。在、ま。さ、ま。と、ま。と、ま。問、ま。は、ま。れ、ま。信、ま。濃、ま。の、ま。訝、ま。ら、ま。る、ま。り、ま。并、ま。の、ま。何、ま。事、ま。と、ま。汝、ま。の、ま。問、ま。大、ま。塚、ま。信、
濃、ま。の、ま。我、ま。と、ま。名、ま。告、ま。小、ま。件、ま。の、ま。賤、ま。夫、ま。の、ま。奇、ま。也、ま。と、ま。今、ま。笑、ま。て、ま。や、ま。と、ま。杖、ま。より、ま。ち、ま。下、ま。り、ま。跪、ま。居、ま。て、
信濃、ま。の、ま。告、ま。る、ま。り、ま。最、ま。卒、ま。介、ま。の、ま。い、ま。へ、ま。と、ま。小、ま。可、ま。の、ま。信、ま。濃、ま。の、ま。大、ま。井、ま。の、ま。驛、ま。小、ま。程、ま。遠、ま。く、ま。小、
條、ま。村、ま。の、ま。社、ま。客、ま。あ、ま。て、ま。息、ま。部、ま。局、ま。平、ま。と、ま。喚、ま。做、ま。ま、ま。者、ま。で、ま。い、ま。言、ま。長、ま。く、ま。と、ま。聞、ま。し、ま。食、ま。ね、ま。鳥、ま。崎、ま。が、
す、ま。死、ま。説、ま。る、ま。り、ま。小、ま。可、ま。が、ま。親、ま。に、ま。け、ま。る、ま。息、ま。部、ま。是、ま。非、ま。六、ま。る、ま。信、ま。濃、ま。の、ま。人、ま。氏、ま。と、ま。井、ま。丹、ま。直、ま。秀、
主、ま。の、ま。老、ま。僕、ま。で、ま。嘉、ま。吉、ま。の、ま。乱、ま。小、ま。殉、ま。壯、ま。研、ま。て、ま。人、ま。小、ま。譽、ま。れ、ま。ゆ、ま。に、ま。當、ま。時、ま。小、ま。可、ま。の、ま。總、ま。角、ま。と、ま。母、ま。と、
俱、ま。小、ま。舊、ま。里、ま。在、ま。り、ま。寒、ま。農、ま。で、ま。い、ま。へ、ま。母、ま。の、ま。世、ま。在、ま。り、ま。時、ま。も、ま。主、ま。家、ま。の、ま。後、ま。の、ま。事、ま。と、ま。い、ま。知、ま。れ、



金蓮寺の
 門前小成孝
 局平小逢ふ

金蓮寺の門前

局平小逢ふ

以いし去る夜三夜靈夢の告ありけり。辟言の甲曹ある一個の老武者銭枕
 方不立ぬひく我の嘉吉不戦歿ある春王安王君の小傳大塚匠作三成是
 り。當日我子番作一成が忠義の掙にぞ。兩公達の御首級及我首を埋く
 恁々の地方在り然とも美濃の金蓮寺の兩公達御終焉の林剱るを
 那里へ返しちあせま欲を汝情地小主僕三箇の觸腰を穿合ると垂井の
 寺へ赤岡也其日必我孫る里見の家臣大志一人大塚信濃成孝と喚做を
 者亦逢ふとあり其折這誼と他小告るべ成孝宜く計ふべ汝を疑ひそと
 示さる一一度のさるる靈夢之夜不及いけり。神謀小のわざと言老實
 ひい果して刀槍不逢さるる。噫奇なりとも異なりける。神謀小のわざと言老實
 達て告るるる成孝の愕然とち教馬たり且歎いて原来海の然る者之を
 我も亦昨夜の夢小其誼と親の告ゆひたに見し靈夢ありき。泡沫夢

幻の果敢るを満むべん小の所れ人小説も知せざりし小自他夢の異るる
 今何を疑ふ不誠小不思議の事なりと答て躬て自餘の犬士と大照文を
 見うて各目今少々如し咱等當寺の住持小告て。兩公達と我大父の觸
 腰を改葬するべ。それとも律令改葬の子孫必二日の忌あり。伏姫神の勅額
 然も憚りる小あ各位先へ小史咱等の這誼を做果して後よりこそ
 由くべれとを七犬士等へ少あざいりて久然る僻ことせん。和殿の大父の我
 父も異なる然共侶の逗留して其葬を幫助とと談され。大も俱小
 父も佛事は是出家の役へ見捨ておく足ぬゆり。咱等も俱小と談し淡
 ると照文の推禁めて所詮甲しといえり。皆は這誼逗留して其葬を果して
 後小俱小かろくと。既小御名代の事果これ。憚る小似て。小思ふ小わら。咱等
 勅額と守り奉る。當驛の歌店小在ん。這美いふと談され。大家安座。點

頭て其説説ゆて穩便へと惴るを信濃の禁めての事開けし事今
コノ人敷ふして寺内へ入らば及て事の障りあらん各位の先宿投て事の成る候
ゆへ咱等この這局平と伴當四五名を從へて入りて寺僧と相譚ふしとて大家
諾ひて先紀二六喜勘大等不吟附て好宿執れと遣りけり。今程は夫塚
信濃成孝の局平等と從へて金蓮寺の玄園の呼門つ。則て役僧と面談あり
告る不追葬の事及へば役僧と答難て躬て客殿に請待し。其後と看
ゆると考程不住持と對面と當下成孝の住持に向いて告る。右の如く且
局平が靈夢の事又明々地説ふ。住持は感歎あり。那両公連の
御代代らせあり。今の已心づもひつる心づてこそいふれ。とて答ふ。障りまうし。成孝
歎ひて又不考。咱等の去向をいそむ者。且一路の主僕百二十名あり。開が中不

七人の咱等が義兄弟。一個の今番京師。大禪師。做され。大と喚
做さ師父。して作り。皆葬事を次。負んとて。俱に當驛の客店に在り。尚日影の高
かる。今より改葬。甘き。欲まの。誼を許容れぬか。と請れて。住持は推辭し
由る。開け性急なる事。旅中とあれ。是非不及。左も右も。引ひてんと
答て。侍坐の役僧。不事。倦々と吟附て。辭して。奥へ退りける。當下成孝の件
一義と。大禪師と。七犬士。等。不告んとて。玄園。不出て。多。伴若黨。不吟附て。驛の
客店へ遣る。却局平が。齋し。る。面箇の小瓶の。初を解。せて。情地。不蓋を。用ひて
見る。不果して。一箇の小瓶。又。小瓶。二箇の。觸。あり。又。一箇の小瓶。又。大人の。觸。
あり。けれ。娘。悼の。淚。胸。不。満て。泣。然。る。を。然。氣。る。多。早。く。蓋。を。う。ち。再。復。ひ。く。
故の。像。不。樹。る。索。と。局。平。不。考。考。て。然。而。役。僧。不。觸。體。の。事。と。生。ほ。く。指。揮。不
任。せ。ぬ。役。僧。則。心。めて。一。兩。箇。の。道。人。不。兩。箇。の。小。瓶。と。受。合。を。ら。せ。躬。く。本

堂より僧の御前を居ける。小程大阪大江犬山犬村大川大田大飼等の七
 犬士の、大禪師を先小立て伴當夫役過半おぼて金蓮寺小あまげれり道人
 案内して客殿小造らるる成孝是小坐と譲りて改葬の事急々と速く
 多を告知まれり大家飲ぶ開ぐ中、大へ然てと微笑て酒家へ使の來り
 軀て其誼をんと思ひ、夫役等とさおて來れり他等小課て故墳を穿
 起させん為るなりとの小原役僧へ又遽く出て來り衆人ふうち向て長老諸彦
 光臨を展すくも住持拜面をべけれも法事小程くハハ華果て見參あべ
 各礼服の御準備いやと向へ成孝然り衣裳ハ皆準備ありををみへと促
 せ、後僧ハ向と心も果ぞ走りて奥へ退りける。憊而沙弥喝食等へ、大及諸
 大士小茶を看め果子と薦る程小讀經の法師等と本堂へ聚る鐘と撞鳴
 也。沙弥等も仍らるる小けり。登時八犬士の伴當小持せる袱裏と解開て

て多めく合のまま白麻の衣麻の社衾を被更れ、大い素より袈裟法衣を
 又執袈裟ふともる。犬士と俱小身を起して齊一本堂小赴はる。俗と離れて
 客坐小居り。施主の成孝と首めて犬士等程よく列坐せり。既而て讀經の法
 師十口許同色の袈裟法衣をうち連立て出く。先本尊を膜拜をて
 經案と並べ、左右二側小連り立て銅鑼と鳴。木魚と敲。梵唄數聲
 唱る程小徐小出ある。住持の老僧前葱紋紗の僧衣小純絳の錦綉の
 袈裟衣被て多小拂子と採れり。左右小従ふ兩個の沙弥あり。香爐と執り如
 意と執れり。住持則佛前の椅子小凭りて西向の小瓶ふうち向ひて眼を閉々
 念誦と凝せ。高足發聲の法師其間毎小鏡鉢をうち鳴して既小讀經を
 促ぐ。各僧各經卷の緒を異口同聲小誦出せば住持も俱小聲と合せて
 讀讀。旁と半响許、大も俱小是を幫助て同經同調聲と惜ま。清亮

とまで高けれ宛春の百千鳥百轉のなか中加稜頰如の聲ある如く清濁
 雲壤争難る衆僧憶む暗と舉て驚見て憚る色あり憊而讀經
 果一が住持の倚子と退けて衆僧と共に經を讀柳兒と鳴と
 匝る夕許多番既小輪り果一時住持則本尊と膜拜して香を焼佛
 足を戴念と訖り退て小瓶の體體廻向多水とを購檀葉と採と
 散一眼と閉合堂して春王安王弟兄と大塚匠作の法師を喚起し且菩
 提を唱へ施主の功德と讚し更諷誦文と誦讀し訖て徐退て躬々
 胡床不着程高足發鼓耳の法師鉦をうち鳴して高く六字の名號を唱
 れ衆僧俱不聲と合て連り念佛する程一僧身を起し來て施主焼香と
 薦れ則成孝と首を大士等皆送代り出で焼香礼拜して退け最
 後小大焼香を是足法事の果けり登時住持の胡床を離れ先成

孝のふうち向いて改葬の功德と稱えて更小大兩名對面して且の師兄を
 大禪師の高僧とよまると美れ導師の憑とをへり一其義を後
 知れば憶むを礼をけり勸解を大い歩あべのり其義友ん松林の客
 僧の那三彌體の和僧の道德の縁とをさるべし先追葬といとせと
 小住持の志とを辨して方丈へ退りけり憊而大塚信濃成孝の伴若黨
 潛地喜勘太と息部局平と召登きて西園の小瓶と會下させ却後僧は
 案内と請へ役僧則先不立て春王安王の軀と瘞り舊塚の邊不造らむ諸大
 士大の成孝と共に侶約て是を見る小一の土饅頭を朽る卒都波三本あり
 成孝の亦諸大士の慨然として懷舊懷古の眞情小勝ざりま然而在るべたふ
 のり成れは夫役考小吟吟て件の塚を穿起さる夫役考の皆あろゆて則當
 寺の道人の鋤秋葉我挺欣借をさせ力と勤して穿程小既而て日の暮るか

犬士等則役僧不薪材をとりての無火にて夜作の便不故骨不速時法
 師四口許きて多て或の線香を焼成の木魚を鳴らり。異口同音不讀經を
 程不、大も亦復是を帮助て讀と約莫半响許既不讀訖先春王安
 髑體と斂めらる小瓶を穿下さる當下法師を、大引導を請か、大
 謙讓三番きて、饒むるもあつたれば、竟左不蕉火を採り右不木鏝を携て杖を
 穿らちせれて高く引導の語句を誦して、偈を唱へ喝を吐く其聲の妙なるの骨
 相威あり猛か、且其眉間より毫光粲然と散徹して、宛六と照を似れば、金
 蓮寺の法師等の遠光景不駭嘆して敬服せらるるは、這時匠作三成の穿
 距と西へ七八歩きて夫役僧是をも穿果か、成孝則其髑體と安葬して四
 僧經を讀、大引導を其所作始不異なる事、既不果か、夫役僧を不歛と
 採りて三箇の葬穴を埋る不穿る時、最も短くて故の土饅頭不倣えか、寺

僧等三箇の穿都彼女と建々。香案を備ふ不犬塚と首を、諸犬士都て焼香
 果て却夫役僧を登り、大と俱不寺僧引れて又客殿不なり、程不夏の夜
 れ短くて道人が撞出ま、初更の鐘鏑々。登時役僧出て來て、大犬士等不齋を
 薦む夜分るれ非時と唱ふ湯淘飯る。三四の菜せ疏あり、伴當夫役局平
 まで皆從者子舎不聚會せ、夜飯の款待不遇るる。當下成孝ハ諸犬と俱不
 役僧うち向ひて改葬非時の款待を謝して且の、我ハ這回京師より、神號の
 勅額を衛なりて安房の稻村へ還者、介る不改葬ハ三日の己心あり、故ハ一路人
 蛸崎照文と喚倣者、伴當數十名を從て守て本驛の客店不存。我ハ主僕
 三十餘名今日葬事不觸者、他と同宿去ら、勿論那三髑體の為不。今日より
 まで三日追薦の佛事とせ、欲を殊不自由、二日の讀經果るまで、我ハ
 主僕三十餘名不止宿と饒し、ゆるや饒され難ハ驛内を、別ハ歇店と求むべし。

感中。よは折るふあひける。と異口同様。不稱れ成孝の然と。応て件の金を受
戴。懐る。勅肚。小楚と斂めて答る。定ふ一心異體。義我兄弟。あつら
其何人。よく我を資助。ん開も亦館の賜。之徳。むろの没ら。べら。れど。這儘先預
てんと。答て感嘆。あうける。這時。大い。則。ふ登りて。姑且。這里。不在。り。けれ。ば。後。ふ
大の。受。を。使。知。る。え。折。り。又。撞。出。ま。人。定。鐘。の。响。く。ぞ。沙。弥。道。人。坐。て。來。て。為。小。蚊
帳。と。無。れ。臥。箒。と。設。て。退。げ。ば。大。大。士。共。侶。不。躬。て。枕。就。け。る。大。の。次。の。朝。大
大。士。多。俱。不。風。起。出。て。齋。も。既。果。折。役。僧。が。告。る。や。昨。宵。示。さ。せ。ぬ。い。毛。を
石。匠。野。見。六。許。出。遣。し。け。る。野。見。六。も。自。今。地。車。二。輛。小。墓。石。多。く。積。登。者。と。車
奴。五。名。六。名。不。牽。せ。ま。御。客。人。大。塚。主。不。拜。面。せ。ま。う。り。と。い。け。り。あ。へ。召。を。い。い
ん。と。公。不。成。孝。訝。り。て。開。心。の。ぬ。ぬ。す。と。以。四。教。の。か。き。の。召。せ。ぬ。と。心。を。ま。れ。役。僧。の
道。人。を。招。け。ま。せ。那。野。見。六。を。召。せ。り。姑。且。と。石。匠。野。見。六。も。小。茶。深。の。絹。の

金。裡。外。套。を。買。置。隨。不。握。り。持。て。客。殿。の。邊。不。多。先。役。僧。の。會。釋。し。却。次。の。間。不。跪
死。て。小。可。の。守。賀。地。野。見。六。之。の。大。塚。様。の。在。ま。る。や。と。向。い。成。孝。找。ま。出。て。大。塚。信。濃。ハ。則
我。之。汝。我。を。知。る。後。と。向。返。さ。れ。野。見。六。も。膝。を。找。ま。近。に。死。然。今。より。三十。日。有。餘。前。の
日。年。紀。五。十。九。有。一。個。の。武。士。我。店。舗。の。來。ぬ。以。て。三。座。の。墓。石。と。誂。ぬ。石。の。小。大。は。注。文。の
是。の。當。驛。内。の。金。運。寺。不。建。る。墓。表。ど。か。七。月。某。の。日。ま。も。不。遲。滞。多。く。造。り。出
ま。ね。其。折。安。房。の。里。見。の。家。臣。大。塚。信。濃。成。孝。と。喚。做。を。武。士。の。あ。ら。ぬ。多。あり。と
墓。石。の。價。と。遞。與。と。心。の。て。と。宣。せ。る。小。可。答。て。仰。承。り。ぬ。然。然。れ。れ。ど。此。の
内。金。と。賜。ら。ぬ。作。事。の。多。創。を。致。し。か。ら。り。其。金。子。携。へ。ぬ。や。と。向。い。那。武。士。沈
吟。し。て。否。と。今。日。の。我。懐。の。財。を。然。が。と。遲。疑。ま。さ。く。べ。と。い。ひ。懐。と。搔。粉
て。て。純。金。の。小。鐸。二。枚。と。又。純。金。の。面。箇。の。靴。と。合。出。し。て。と。小。可。不。渡。て
宣。せ。り。あ。ら。二。五。箇。が。純。金。の。價。十。餘。金。の。當。る。足。東。西。を。權。且。是。を。留

措^かね^ね大塚^{おほづか}が^が家^{いへ}ある^{あり}ふ^ふ及^{およ}びて^て墓^{かぶ}石^{いし}の^の價^{あひ}と^と取^とり^り折^ひの^の豆^{まめ}易^{やす}ふ^ふこと^{こと}を^を告^つげ^げれ^れと^と言^い正^{ただ}し^ます^す
首^{かぶ}の^の課^かを^を先^まに^に小^こ可^か則^す心^{こころ}の^の果^はて^て事^{こと}實^{じつ}一通^{いつぱう}を^を寫^{うつ}す^す時^{とき}其^{その}姓^{せい}名^なを^を問^とひ^ひ
る^る不^ふ否^ひ我^{われ}名^なの^の告^つる^るふ^ふ及^{およ}び^びを^を徑^{かじ}る^る大塚^{おほづか}信^{しん}濃^{のう}と^と録^{ろく}し^しね^ね那^な人^{ひと}必^{かならず}知^しる^るく^くわ^わら^らん^んと^と鮮^{せん}
示^しし^し多^た実^{じつ}を^を受^うけ^けたり^り飄^{ひょう}然^{ぜん}と^とて^て出^いで^でゆ^ゆる^る必^{かならず}然^{ぜん}と^と昨^{きのう}日^ひの^の細^{こま}工^{こう}成^{せい}就^{じゅう}の^の約^{やく}
束^{たば}の^の目^めで^でゆ^ゆる^る形^{かたち}の^の如^{ごと}く^く彫^{ひょう}果^{くわ}て^て施^せ主^{しゅ}方^{ほう}と^と候^{こう}程^{ほど}小^こ昨^{きのう}宵^よ御^ご寺^じの^の役^{やく}僧^{そう}様^{さま}の^の御^ご
使^{つかい}を^を下^{くだ}され^れて^て客^{きやく}人^{にん}大塚^{おほづか}主^{しゅ}の^の所^{ところ}要^{よう}あり^り玉^{たま}の^の朝^{あさ}所^{ところ}も^もよ^よと^とあり^りた^たは^は必^{かならず}是^{こゝろ}証^{しやう}ら^ら
ま^まる^る之^{この}箇^{この}の^の墓^{かぶ}表^{ひょう}の^のま^まま^まと^と小^こ可^か早^{はや}く^く心^{こころ}の^の込^こめ^めて^て皆^{みな}地^ち車^{ぐるま}か^から^らち^ち載^{のり}て^て牽^ひせ^せて^て参^{まゐ}り^り
ひ^ひぬ^ぬと^と言^い詳^{こま}報^{ほう}し^し大塚^{おほづか}を^を疑^ぎ惑^{ごつ}ひ^ひと^とえ^え諸^{しよ}大^{だい}士^し大^{だい}も^も訝^{あや}し^し俱^{みな}眉^{まゆ}を^を頻^{ひん}蹙^{しやく}
ける^{ける}當^{あた}下^{した}成^{せい}孝^{こう}の^の又^{また}野^の見^み六^{むつ}ふ^ふら^ら向^{むか}ひ^ひて^て汝^{なんぢ}今^{いま}告^つげ^げせ^せ給^{たま}ふ^ふ其^{その}事^{こと}の^の實^{じつ}を^を告^つげ^げし^しも^も
い^いま^まこ^こ心^{こころ}の^の込^こめ^めを^を那^な内^{ない}金^{かね}の^の代^{しろ}の^の受^うけ^けと^とえ^え鑿^{たく}と^と鞆^{たもと}と^とり^りて^て來^きぬ^ぬや^やと^と問^とひ^ひて^て野^の見^み六^{むつ}ふ^ふ心^{こころ}も^も果^は
を^を懷^{なつ}紙^しを^をち^ち削^けり^りて^て開^{ひら}き^きぬ^ぬと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ件^{けん}の^の三^{さん}種^{しゆ}を^を渡^{わた}す^す其^{その}成^{せい}孝^{こう}受^うけ^けたり^りて^て左^{ひだり}見^み右^{みぎ}

見^みても^も思^{おも}ひ^ひぬ^ぬを^を自^{みづか}餘^{あま}の^の大^{だい}士^し小^こ示^しして^ての^の意^いを^を見^みぬ^ぬ這^{こゝろ}小^こ鑿^{たく}の^の童^{どう}佩^{はい}を^をあ^あら^らん^ん鞆^{たもと}の^の
桐^{きり}葉^は小^この^の字^じと^と彫^{ひょう}す^す是^{こゝろ}則^す今^{いま}我^{われ}佩^{はい}す^す短^{たん}刀^{とう}の^の鞆^{たもと}似^にたり^り是^{こゝろ}短^{たん}刀^{とう}の^の事^{こと}も^も大^{だい}
川^かを^をと^と知^しり^り昔^{むかし}大^{だい}父^ふ匠^{しやう}作^{しやう}翁^{おう}の^の世^よ小^こ在^あり^りし^し時^{とき}小^こ母^{はは}龜^{かめ}條^{じょう}刀^{とう}自^{みづか}取^とり^りせ^せぬ^ぬ
と^と故^{ゆゑ}あり^りて^て我^{われ}成^{せい}孝^{こう}小^こ傳^{でん}へ^へる^る桐^{きり}一^{いつ}文^{ぶん}字^じ即^{すなは}ち^ち是^{こゝろ}是^{こゝろ}也^{なり}
暗^{あん}記^きの^の失^ある^る皆^{みな}當^{あた}ふ^ふ自^{みづか}他^た鞆^{たもと}の^の相^あ似^にたり^りる^る西^{せい}要^{よう}を^をと^とり^りて^て沈^{しん}吟^{いん}々^々役^{やく}僧^{そう}小^こ向^{むか}ひ^ひて^てい^いふ^ふ
言^い半^{はん}介^け大^{だい}い^いへ^へも^も當^{あた}山^{さん}の^の宝^{ほう}藏^{ざう}小^こ春^{はる}王^{おう}安^{あん}王^{おう}君^{くん}の^の像^{ざう}見^みる^る短^{たん}刀^{とう}の^の事^{こと}也^{なり}且^{かつ}當^{あた}目^め這^{こゝろ}
寺^{てら}内^{うち}を^を戰^{いくさ}死^しせ^せる^る大塚^{おほづか}匠^{しやう}作^{しやう}三^{さん}成^{せい}の^の軀^{くわい}い^いふ^ふ小^こけ^けん^ん且^{かつ}其^{その}折^せ三^{さん}成^{せい}の^の身^み小^こ著^{ちやく}す^す
鏢^{せう}衣^い身^み甲^か大^{だい}刀^{とう}を^を藏^{かく}め^められ^れむ^むや^やと^と問^とひ^ひ役^{やく}僧^{そう}も^も沈^{しん}吟^{いん}々^々否^{いな}大塚^{おほづか}公^{こう}羽^うの^の亡^な骸^{がい}の^の
當時^{たうじ}總^{そう}大^{だい}將^{しやう}清^{せい}方^{ほう}主^{しゅ}の^の下^{した}知^しり^りて^て市^{いち}小^こ葉^はと^と傳^{でん}へ^へる^るの^のを^を開^{ひら}き^き大^{だい}刀^{とう}を^をい^いふ^ふ
但^{たゞ}一^{いつ}春^{はる}王^{おう}安^{あん}王^{おう}君^{くん}の^の短^{たん}刀^{とう}の^の今^{いま}も^も藏^{かく}め^めて^て宝^{ほう}藏^{ざう}小^こ在^あり^り只^{ただ}年^{ねん}の^の六^{むつ}月^{げつ}毎^{まい}小^こ出^いで^でて^て虫^{むし}を^を拂^{はら}ふ^ふ
の^のと^とい^いふ^ふ成^{せい}孝^{こう}を^をち^ち削^けり^りて^て去^いら^らば^ば最^{さい}自^{みづか}由^{ゆう}多^たし^し其^{その}短^{たん}刀^{とう}を^を見^みる^るに^にい^いふ^ふで^で方^{ほう}丈^{じやう}へ^へ願^{ねん}せ^せ玉^{たま}

老翁と昨日の如し住持の導師を、大に譲れぬ敢せむ、大に猶客坐する在りて助
聲あるもの。這次の目もかくの如し二日あて追薦の佛事果し成孝の基誥
香と焼た花を以て賻け又客殿に退れて義兄弟等と商量を以て役僧を招きよ
せ目録を以て布施を渡す。改葬三日の法事料金十兩主僕二十餘名二宿の
房錢金五兩春王安王并小成の祠堂料金二十五兩通計五十金を以て役僧見
け、款び受て退れて住持に告て照書一通を呈閱を其後又成孝の局平を客殿へ
招き召す。汝の大昨日より辭し去んとし、いかど我留在せし案内を憑きまく
思へ、抑汝の老實ある徳ありて、料らばも三體體を改葬をける、然るに亦くもあ
らむか。是を褒賞取まざるを圓金三十枚と與れ、局平の夢うとむるに天の款び
地の喜びて受戴たり、懐へ楚と斂めて安んず。然るに、この世に、この大金を賜
てぬ、冥加ありて胸安んば、是れと田圃を買殖して宅眷を優れ養て、那里のを

あふとも、御道と仕らんと、憚るを成孝うち笑て、不と、異なる路にわたり、改葬三日の忌へも
今日もせり果ぬれ、明日より東へ還る序、小條村に立ちて、我外祖父母并丹三
直秀翁夫妻の墓に詣り、欲は其頭の案内を憑き、この局平を以て、開の易し
とも易かり死と告て、軀を伴當の居る、總所へ退り、當下成孝の夫役の老立ちたる者
兩二名を召し、他名が穿を穿り、墓碑を建、觸穢を脱ぎ、其老實を以て、
此を以て、身淨の折乾ふと、小方金十片と命り、夫役等、皆少躍して、款び
るるに、左右の程、小日の暮り、大居士、住持、明日の別れを告て、今宵も亦
這精舎に明あり、詰朝の王僕、夙く起出ける、役僧浴室の準備あり、この大家、迭
代、浴を以て、已心、身の身を、御系を、這時、大士、の、槽地、喜勘、大、照文、の、宿所、遣して、
今日、這地、立去、死め、と、改葬、及、墓石、の、奇事、を、告る、と、照文、も、其、く、る、身、
装して、俟る、と、憚、而、大、諸、大、士、の、主、僕、の、早、飯、果、る、と、軀、を、故、の、く、り、装、と、整

住持役僧も別れを告げて伴當と局平を招く。金蓮寺と立去る。二町を過ぐ照文も亦紀三六以下の伴當那勅額の長櫃を昇り、這方と投て束身小逢ひけり。當時逢ふ近づく隨一霎時路傍に立在る會話をあり。開中照文の今朝多知る那奇事といひて大塚が孝感の幽冥通を稱賛を成孝の亦小條村へ立ち多欲まのりさ告ぐ皆白くゆり是より亦主僕故の如く百十數名も一奴夫役等の立替りて長櫃を昇り從ふまの日より二日未下る時候小條村來りければ局平の拈華庵の墓所を井氏夫妻の墳墓を案内を去奴隷の母と夫役の想ひて柴の外面不在の又局平の水と汲み櫛を求めて件の墓を建ると當下成孝の杖を其墓に見る。親の語説ふ事いかに何人の建つらん。三重の墓石ありて直秀夫妻の法號と歲月を刻し。右の方の昔年父番作が那首級を惜地小瘞めける處より。曩も局平が穿起り壤の尚乾はるはせ。土澄迹ふ似る成孝の

あの墓を誦りて跪合堂にて念下果て退げ。自餘の犬も、大禪師も迭代の廻向をけり。徳而成孝の又局平と案内して拈華庵を呼んで則庵主對面素より村落の小道場を客殿へ入り。ヨ客を容る。足らざれば、木と自餘の犬も又退りて外面に在り。或の庵の檐廊に屍を掛るものあり。裏面は庵主と同宿の老女僧と居り。當下成孝の庵主に向いて在俗の安房の里目の家臣を大塚信濃成孝と喚做ま者。當所小墓あり。井丹三直秀翁と其孺人の我母の二親を、外戚の偶這地を遍る。参詣いひぬと告て香奠の東金一枚可と呈され。庵主満面うち笑れて受戴。佛前へ供して却成る。那井氏のありとも昔當庵の大檀那でひい。吉祐吉の乱。那家滅亡して墓表がふる。前代の庵主の時幾稔り縁縁して這庵室を再興の折。件の墓も建ち。昔年蚊牛と喚做る。庵主柱死を、庵も共焼亡。久く住でひい。前代の傳真庵主の拙僧の師をひ。原來和君。那井氏御外戚の

尚青年小見えの御孝順るるかき。と云間小同宿の女僧が茶を煮て薦ゆけり。當下
成孝の茶を受飲して列々と四下を見つ思ふ。昔我父少かりし時。這庵室の歌を投
て破戒を斬る庵主を誅して料を我母刀自ふる告會あり。是天縁の重なる所
嬬伎の創成りしを我總角の比親の夜話の事思ひま。今其庵小卒も。後
庵主小逢んと一善一悪人同下か。一去来其地へ同。浮世の環小似るけりと思ふ心
久しふを偲ぶ故事を人ぞ知らねるを。辟の下の倚る。敗刀一口あり。柄と鞘の
朽果れども。由来ある故思ひく。庵主小向いて。件の刀の故のや。尋るる。庵主答て
否。那敗刀の然し。故のひ。十日有餘前の夜の事。只今詰あり。墓の邊を穿
起者あり。鉄と斬りて。其頭の上の異る。松僧を見思ふ。尚備柱死す人の
亡骸。情地も。埋める。牙人の所為を。尋思ふ。れ。ち。措。秋金の
其頭を穿返して見せける。那敗刀の出る。白骨も。ある。刀土中久く在けん。

朽れれば。銭ある。好者もある。售らやと思ふ。と。報る。成孝うら。思合まる
と。ち。然。氣。は。其。件。の。刀。請。合。り。て。是。を。見。る。実。土。中。小。幾。稔。飲。埋。れ。て。在。けん。
表。装。の。皆。亡。し。た。も。鏢。と。刀。の。朽。も。甚。且。柄。下。の。四。字。銘。あり。相。一。文。字。と。讀。れ。悞。
然。と。敬。馬。く。ま。不。且。感。且。鉄。ひ。て。肚。裏。小。思。原。来。這。刀。の。我。大。父。戰。死。の。折。す。も。
腰。小。佩。ひ。と。我。父。其。首。級。と。共。小。奪。命。も。又。蠅。く。ヲ。兵。を。殺。脱。て。其。首。と。共。侶。小。那。里。
埋。め。ひ。け。我。の。親。の。話。説。の。首。級。の。事。と。大。刀。の。事。と。這。大。刀。の。事。と。か。
折。埋。め。ひ。不。疑。ひ。然。こ。を。あ。れ。比。大。父。の。靈。の。前。價。代。小。野。見。六。小。合。ら。せ。ひ。さ。
靴。ハ。則。這。刀。の。鞘。る。是。も。亦。自。然。小。出。て。疑。ふ。不。疑。ふ。這。大。刀。の。那。二。靨。體。も。猶。
下。在。し。る。ん。這。故。小。局。平。の。知。り。て。穿。出。ま。り。けん。反。て。庵。主。の。獲。あ。せ。れ。て。我。視。不。
思。議。さ。と。知。れ。那。折。小。金。蓮。寺。へ。寄。進。せ。故。の。ど。く。這。大。刀。の。杜。衣。小。做。ま。の。便。と。り。ま。
事。の。暗。合。是。も。亦。自。然。小。出。て。鞘。の。出。處。を。今。正。可。小。知。る。娛。と。と。肚。裏。を。自。問。自。



八景九車卷上

廿一

天山

八景九車卷上



拈華庵小
 梯順効力
 瓜見走

八景九車卷上

八景九車卷上

犬村

おん主

犬

答言。正。然氣。又庵主。向。這大。價。何。成。庵主。僧。知。二百。宜。取。成。孝。小。鼻。紙。卒。庵。與。庵。受。過。分。造。化。謝。硯。受。合。手。實。成。聲。高。尼。前。其。頭。在。刀。袿。們。主。一。路。人。推。並。茶。追。從。款。待。喋。女。僧。答。否。水。一。波。七。來。一。桶。引。提。東。方。成。孝。誦。又。庵。主。向。這。庵。井。向。向。這。庵。井。十。餘。有。餘。前。秋。酷。地。震。時。上。山。大。石。滾。隊。井。幹。碎。泥。搖。入。井。空。是。水。失。今。四。五。町。東。石。滿。在。汲。命。の。と。告。成。孝。井。不。便。庭。樹。柱。敏。刺。東。大。石。空。這。坐。席。薄。席。

故。其。石。見。檐。廊。尻。掛。大。田。豊。後。喚。被。哥。和。殿。斂。力。那。大。石。比。の。轉。遣。も。易。何。事。も。人。の。為。成。試。不。成。試。入。の。羅。外。五。大。力。士。あ。れ。が。思。何。事。も。人。の。為。成。試。不。成。試。入。の。羅。外。套。を。脱。措。野。袴。の。稜。結。刀。比。月。の。統。身。起。其。大。石。の。真。逆。找。近。猶。胸。是。計。石。の。高。向。五。尺。許。上。大。り。下。太。く。徑。四。五。尺。る。井。を。空。井。も。理。幾。百。貫。奴。あ。や。ん。実。小。千。曳。の。巨。石。も。梯。順。の。物。も。其。隼。多。を。掛。推。試。小。齒。の。揺。如。揺。め。け。是。好。と。兩。掛。と。曳。と。噓。て。換。反。千。曳。の。巨。石。根。を。離。れ。口。是。白。を。輾。も。像。く。梯。順。の。多。小。從。多。二。三。杖。比。の。親。兵。衛。道。即。現。八。兵。衛。の。大。石。既。除。れ。迹。地。泉。涌。出。庭。溢。れ。已。親。兵。衛。道。即。現。八。兵。衛。其。頭。小。あり。圓。石。の。輕。重。或。八。九。十。斤。或。百。斤。有。餘。最。も。易。像。小。合。擣。聚。敗。井。の。匣。居。一。立。地。井。幹。成。其。水。溢。れ。今。這。事。の。光。景。庵。主。

らるる庭門の邊に在りける局平も目今水と汲合とて。うるも亦ける同宿の女僧三俱ふ
 膽を提して引提し桶を合落せ。逆の断離れて。散水も四下の人三碎易
 志て大家吐と矢けり。姑且志て大村大学の大田豊後。向ひてのやう。和殿并大江大
 山犬飼の力藝を見して。庵主の水と汲させ。是も亦仁の一術也。武の至りといひ
 べ。咱ちの又文の復泉の記と貽さとも。墨筆の筆と抜か。徐小件の石の
 杖と近つた翰を添て。石の平坦る処へ記文一編を寫着る。毫も稿を設る。蓮の
 糸を引く如く。速お綴り果て編左の歌のて。貸さけり。
作者云。復泉の記。必漢文あり。漢文の看官の反て。ひやく思ふもあらん。且文の言くる。むねを感ふ。その上。たゞ。そのと。れ。そ。の。お。お。大村の文も亦得。故。不。自。然。て。あ。り。載。さ。る。當。下。滑。智。足。を。見。て。大。田。の。替。力。あ。及。ぶ。と。大。村。の。文。も。亦。得。か。く。然。り。と。今。言。る。は。後。の。悔。り。の。杖。も。似。而。非。歌。を。添。ん。と。隨。即。其。毫。を。借。て。又。一。詠。を。寫。ま。し。か。餘。の。六。大。士。も。興。不。棄。を。各。歌。を。詠。出。り。次第と追を録あり。
 又。一詠を寫ましか。餘の六大士も興不棄を各歌を詠出り。次第と追を録あり。
 然。蚤。崎。照。文。も。庭。門。より。杖。を。入。り。列。々。と。見。り。只。管。感。嘆。と。親。兵。衛。急。お。喚

禁め。蚤。崎。叟。々々々。和殿の何ぞ一歌と惜とて俱お賛せ。と。の。れ。て。照。文。頭。紙
 撥て咱ちの風流の疎れ。這夥計入りか。と。辭を親兵衛諸大士も。う。笑
 は。敢。饒。さ。開。き。好。も。あ。れ。ず。も。あ。れ。這。大。皇。國。人。も。志。這。大。皇。國。歌。を。讀。ま。水。の。栖。む
 蛙。花。の。鳴。く。當。中。も。劣。る。べ。し。と。讀。り。て。困。ど。一。霎。時。沈。吟。し。て。稍。其。巨。石。の。書
 寫。れ。が。大。由。杖。と。近。つ。た。處。で。よ。み。見。て。莞。尔。と。う。ち。笑。て。諸。彦。上。目。く。や。れ。る。杖。も。亦。蛙。の。劣
 り。歌。ら。れ。歌。の。ゆ。ま。れ。だ。も。並。て。恥。と。選。ま。べ。し。と。い。ひ。り。も。且。照。文。の。筆。を。借。て。寫
 果。て。又。お。ち。各。彦。王。と。連。ね。歌。を。自。筆。の。の。も。是。鑄。る。小。あ。ら。ざ。れ。ば。竟。小。風
 雨。小。磨。滅。して。一。句。の。あ。ら。ざ。る。の。べ。庵。主。の。為。加。持。と。い。ひ。又。石。の。向。ひ。て。數。珠。を
 さ。と。推。搦。て。一。霎。時。咒。文。を。唱。へ。一。喝。あ。て。退。れ。け。然。レ。這。復。泉。の。記。も。跋。登。の。十
 歌。の。後。百。年。と。麻。止。る。石。面。の。耗。を。て。幽。に。讀。れ。り。と。い。ひ。是。後。の。話。當。下。八。犬
 士。の。聚。合。復。泉。の。記。を。默。讀。し。讀。果。る。時。大。学。の。代。り。て。琴。歌。を。唯。誦。ま。り。其。聲。朗。か

あて妙るべ拙は歌も少不堪方。自他迭お唱嘆し、欬びざるをりける。然其記文の
後不詞章あり且十歌ありて曰。文明十六年秋七月十六日大村大學頭金碗礼儀
が拈華庵主の爲ふ述ける復泉の記の後不題せ居一路人等が十歌一賛左の如大
塚信濃久成孝の孝感懐甚思の歌も亦その中在り又礼儀を首とせ石面各即
事自筆の歌小曰。

賛歌第一 壯士 ちひなや
まをりをが千曳の石とわたりてまみよた庵の苔清水なる
大村礼儀

賛歌第二 埋れ井の石蓋ひとれ漏く水おちりちりの名も流さん
大坂胤智

賛歌第三 信濃より戸かゝ山小まき神もあふまらぬや神をらぬ神
大飼信道

賛歌第四 山と後くりもあふ健雄が根まふ石のかたりのかた
大田悌順

賛歌第五 井へ成りぬひさごとく汲め雲近く水遠かゝ山あり乃庵
犬山忠與

賛歌第六 無乳母 住り里ふ多て見れ山やとら凡宿も多う
犬塚成孝

賛歌第七 剣大刀二世今一の本末とむを後の庵ありトかか
大川義任

賛歌第八 小篠原よりくまの山は井あり汲見よのまゝの系
大江仁

賛歌第九 糸は芳宜小なる山邊の衣のまをるはばあふ秋の初風
蛸崎照文

賛歌第十 峯の松うら小生まそ風さそ設耳の麓のむろふ入る
大禪師、大

善業不滅不断加持却火即滅ハ功德水平等利益とをありける巧拙各差あれども
皆實詠ふわらぬもるけれ。知るも知らぬも推並て感嘆あるも故あるは徳而犬塚成

孝ハ又庵室より坐して且局平と召よきて更ふ庵主小向いていふや。咱等ハ是執禱の

身也其地也相距と亦近うね。異日其墓詣ハ究てかゝらう。とら局平と見えると

那局平ハ我外祖。井直秀の老僕の子也。昔昔縁ゆか。今も後ハ他を也。當庵の施

主小做矣。とら局平と召近つて。汝ハ素是老實家也。今よりして我ハ代々井屋の

墓を守り終ると。痛心も懷を搔搔りて圓金十兩を數ふと。先其五兩と庵主小

施一五兩を局平小與々々其五金と這五兩の井氏の為小香華料僧俗兩
個小等分て成孝寸志のこゝれ合笑む庵主の局平の呆々々頭を擡ら
んと麻の又思ひたる御向の身餘り御恩を受まら小這里の御墓を
守れと折々草と艾拂ひ忌日小櫛と賻るる何なるの費あは然ると又這御金子を
受まらたと杖と推辭ハ庵主も傳ふら御向もいへと云ふ井氏の當庵用基の施
主を累代の檀那より其後を憐て先住の時墓と建た況忌日香華若
這御施入の要ると辭ふ成孝推復して開其該の事外祖の祀を人小任せ徳
なるの及不及枯者の為小宜かへ柱て愚意小従ひてと論一の金子と受食其
別を告て相一文字の大刀と引提て立れが庵主と女僧の满面春色を造作物
体る御蔭で水とゆり小千葉茶蔭の花と小用せぬ功徳廣大陀佛々々
と念づく送れ亦局平も只得金子と受斂め走下り雨折戸の邊小跪居々待

るる一這時大阪大江犬山犬村大田犬飼者の諸犬士ハ大照文と共侶小既
門前在成孝の身と軀々伴當夫役を従ふ又復路次といふまき當下局
平ハ大塚と留めて小可が白屋の是よりと遠く御向の暇折小走々々老腰
御賜のヨリと無井の首尾と報へ他も執意意外小出前より茶を煮て待り
卒立寄せありと請を成孝少吏否と這一路人尋ふ候せ那里へはれや
送憶く思へもあを袂を分つてと先伴若黨小吩咐て推らす相一文字の大刀
考卷の内小蔵ゆませ却局平小身の暇を合さる軀て衆人と俱小路次といふを局
平へ猶去難て後小跟々あけり成孝も諸犬士も見々々辭論小路十町詩を
只得其里を別と告て己が宿所へ還りける局平並小石野見六の是這下小話説る
然ハ大塚成孝ハ伴の相一文字の大刀と異日刀匠小研せける素より雖交る名刀を
年來土中ハ存りかど聊も土蝕せ又いづもあふれハ則相一文字の鞘と鐔は是

皆具して。表装ふも盡さず。桐一文字の短刀と大小一對の名物不作りあり。
後見孫おどけける。故も哉成孝の忠孝も。那村雨の大刀の如く久く其身物不
作りを。毫も吝嗇の心も。父の遺訓を果たして成氏主返あり。其後幾
らぞして。於是祖傳の名刀をゆり。便是天の配劑善報善善と以て物の損
益都皆善惡邪正縁方なる。世人多く這理と知む。只不義の利を欲する者
貪る。厭食とるれば。那身大損なり。いへも子孫不造りて禍あり。成失する者寡
欲其身の。子孫長久に至る。慎むべき。其間話休題。余程八大士
、大照文。又五七日の旅宿とあり。武藏國豊嶋。今柴浦。今東路の
程。菅菟大塚の郷。大塚信濃。故郷也。二親の墓。香華院在り。又大川村。及の
母の幼婦塚あり。又大川衛士の墓。伊豆の堀越在り。又大塚。大飼現。八兵衛。実
父糠の墓もあれ。俱不立より。墓詣をも。後來不轉の香華料をも。寄進せ

まくりけらる。既美濃路を。改葬の觸穢已を。ゆき淹留二日。及び。今又其
頭小路草と喫。親の爲といひ。公道を疎。私事を耽る。似る。墓詣の
事。異日の便宜と俟。不如と思ひ。多。皆共侶。件の浦邊。此。然
這二大士。次の年。不至り。義成。王願。願。俱。大塚の御。是。本意を
果せ。又道節。父。大。山。道。策。と。実。母。と。女。弟。濱。路。の。魂。と。招。けて。其。墓。を。安。房。の
延命寺。建立。を。又。大。阪。下。野。の。其。父。栗。原。首。胤。度。と。嫡。母。稻。城。異。母。兄。愛。之。女。
兄。玉。枕。及。実。母。の。墓。さ。へ。右。小。同。寺。建。て。子。孫。孫。不。至。る。年。忌。月。己。心。の。祀。念。を
あ。り。と。む。這。他。大。村。大。学。の。初。大。飼。現。八。小。伴。れて。昔。里。赤。岳。山。を。出。し。時。実。父。母。親
父母及故妻。離衣の香華料を。寄。香華院。寄。布。を。其。墓。額。轉。を。も。あ。り
也。又。大。田。豊。後。の。祖。父母。と。母。の。墓。の。行。徳。在。り。父。文。五。兵。衛。の。墓。瀧。田。在。り。又。大
江。親。兵。衛。の。大。父。并。二。親。山。林。房。八。と。沼。苗。の。墓。市。河。の。御。在。り。是。等。里。見。の。封。内

るる小且大江屋依久と其妻水滸と迭代より詰て忌日小香華と絶とす。又
政木大全も父河鯉守如の墓を建す思ひて去の後里見殿不願の京一。那武藏
豊嶋る日比の寶傳寺赴江一那那里大阪瀧智が五十子の城不在。時孝嗣の
為守如の墓と造建。且寺の頽破及びと修復をると去の折初て知りて感
涙坐小吐むまを於大と又永年の香華墓所料も既小瀧智が寄布
あつととす。今さの別小供養去の事あつ。只香華院小墓ある祖先と母の為
よく香華料を寄進す。然るも大阪其朋友の為小も憊る大功徳を故
る。及て孝嗣小生も知せ其あつ。知る小隨。孝嗣深く感佩。稻村へか
ま。這を瀧智小出。君子と稱て三拜の礼を納へも足とせ。是より後
瀧智小逢ふ毎必其席と避て諸兄の礼如く敬る日。是等皆後の
話説るれ。今語次軍ければ集りて結ぶ。同話休題。介程小。大士、大

照文へ柴浦へ來り程。去向水陸の便宜と相議。照文がのち。這里より水
路と洲崎へ還り。速く便路を。勅額あり。御教書あり。然る風濤の害怕を
思ひて。近江を食する。只下總と麻生上總に至る。陸路とて軍かめと議。さ
、犬の歩あまの。然る迂遠。路も。犬塚の改葬。美濃路。二日を費。さ
れ。日と縮めて早く還る。今尚秋暑の時。れ。冬の海の日。暴。似。况。八犬士の身を
衛る。靈玉あり。且勅額。の故。伏姫神の擁護。も。何。の。害。怕。あ。る。と。議。
ま。れ。犬。士。等。皆。諾。る。師。父。の。決。断。勇。あり。理。あり。徑。小。水。路。と。久。ら。む。と。則。這。浦
ま。く。巨。舩。一。艘。と。傭。ひ。て。這。夜。七。月。下。豆。の。月。の。時。候。より。纜。と。解。ま。果。し。て。順
風。る。り。け。れ。同。舩。の。主。僕。百。十。數。名。枕。と。高。う。あ。る。屋。裏。小。舩。の。走。る。と。幾。十。里。を
け。次。の。日。の。己。の。左。側。小。洲。崎。の。港。口。小。入。り。け。り。
作者云本編の腹稿より都文より。四十六の巻端に附録目と追加

たれども本文史の皆故の題目の事。附録目と省くは、この一回の故の題目なる所
 也。且長編るべし別附録目をして一回とす。も腹稿ありながら法會の屢々
 故不棄去へやと思ひ、おも開も又遺憾しければ、ち棄難て這一回の抑結城の
 法會と。うち續けて白濱延命寺の改葬の事あり、其後又水陸施餓饑、大法
 會あり、既して最後に至りて、金蓮寺を追葬の事及拈華庵の結局あり、約
 其一部の稗史小説の儘を佛事のうち續くを厭ひて終り果しぬ。作者の用
 意を思ふべし。蓋先祖父母弟兄の爲に祀を爲し、其追薦の佛事法會を修
 するは孝子忠信順孫義士の上。必欠ぐらざる所也。本傳の大関目善と勸
 め悪と懲ま約束の終也。這事ありあべし。然ども佛事ハ孰も佛事也。別
 せんるは者多し。其事相似て其趣の異なるを、好看官にあらざる知るべし。克念
 ふ者の屢々を反く喜するも、わん左も右も老嫗深切みらるる爰ハ評注を覆

將西のりく見るころ。知音の友の庶幾とせん歎。

第百八十回中

義成功臣と重賞して八女を妻を

却説八犬士、大照文の主僕百十數名、其船洲崎ふくの事、則勅額と御
 教書を相捧げ、稻村の歸城して、這義を穿え上り、而家老東辰相荒川清
 澄執達也。次の日、義成主に見参り、京師の首尾伏姫神の勅額、大を
 大禪師に做されし事、詳し穿え上り、件の勅額と室町殿の御教書を
 見せしめ、義成主拜戴欣悦大なる事、大照文犬士等も勞を
 汝等の徑に瀧田の城へ参り、這義を老館に宣上り、勅額の事、異日の
 沙汰あり候べし。休暇の命あり、一件の九士一僧ハ、船に瀧田へ赴きて
 義實老侯に拜見し、其告する事、毎義實歎び、ちや、那歸路
 中、二鬮體の事、桐一文字の大口の事、美濃の金蓮寺と、信濃の拈華

庵やぐわりの奇事犬田豊後が力技の千万人の勝れり。又越前紐めて
 少知り感嘆特におあさかろむ。只義實主のまゝ後中義成義通君
 両家老諸士さへ件の奇事を少知り。駭嘆せざるはる。皆成孝の孝
 感と傳へ稱賛をちける。徳而義成主の有功の諸臣等を賞禄の沙汰
 あへべし。一日龍田へ赴き義實老侯と商量あり。あとの國府吉堂の城の
 番士の頭人真間井樅二郎継橋綿四郎潤鷲手古内振照俱教二文明の
 岡倉鳥山真人へさへ。行徳口の成小置れる。石龜次園太越郷云市河
 る。大江屋依久兩河原る。向水五十二太枝獨外。素手吉介至る。心
 威稲村へ召させらる。有徳一程。落點餘之七有種の誼夾院村を法印
 豪前をねど。先度の謝恩の爲ふと。穂北の社より詰申ふれば。開き幸の祈
 る。則大山道節不課て其伴當と俱稲村の城内召置る。時八月

十五日ハ黄道上吉の頃日る。國守里見左少將義成主鳥帽子朝服を
 今朝も辰の比及正廳小着坐あり。両家老八犬士諸侍皆慰斗目衣長
 社祈せ。出仕せ。第一番八犬士を召出。て這回の軍功の賞とて
 各一城の主の做さし。米邑各一萬貫文を賜ふ。と仰る。但一上總の郡
 縣廣く且富饒の地るれども。稲村へ遠ければ股肱の家臣を置べ。其の故
 胡意當國中宛行。去の中大江親兵衛の義表上總る。館山の城主小做
 され。かども事小。あつて在任せ。且秩禄の定る。然るを這回改め。当
 當國館山の城主と。其城を地。速に城郭を執建。在任せ。格式の
 家老の上席中。上大夫と。自親仰渡されて。且東辰相を。其城
 邑の目録を成下され。君恩既。身。餘。八犬士。か。共。侶。兼。ま
 つ。退。其。目。録。を。拜。見。恩。賞。都。て。異。同。仁。の。字。と。首。を。

其次第左の如し。

安房國館山城主

采邑一萬貫文

上大夫

大江親兵衛尉金碗仁

同國東條城主

采邑一萬貫文

上大夫

犬塚信濃公金碗成孝

同國大懸城主

采邑一萬貫文

上大夫

犬阪下野公金碗胤智

同國御厨城主

采邑一萬貫文

上大夫

犬村大學頭金碗礼儀

同國朝夷城主

采邑一萬貫文

上大夫

犬山道節帶刀先生金碗忠興

同國小長狹城主

采邑一萬貫文

上大夫

犬川長狹莊公金碗義任

同國神餘城主

采邑一萬貫文

上大夫

犬飼現八兵衛佐金碗信道

同國那古城主

采邑一萬貫文

上大夫

犬田豊後公金碗悌順

とぞありけは次小東六郎辰相荒川兵庫助清澄を召よき恩賞あり。この
両家老の忠誠甚舊老氏元貞仍小劣らむ。素藤對治の折も、今回大敵

防戦の日も進退よく度不稱を備らる所を、あをりて采邑五千貫文の舊

地、今亦各二千貫文を加増を共本領五千貫文と仰ら。次小板倉武

者助直元堀内雜魚太郎貞住、恩賞あり。他多の、今回の閉戦、勲績伯

仲生、俱小其父の重職、嗣不足れり。あとの家老を、采邑の父の時の如く、三千

貫文と仰渡されける。却其次小政木大、全孝嗣を召よせ、大田木の城

主、不做事、他の素藤對治の日も、大江親兵衛を幫助て、戦功あり。御向又

葛飾の閉戦、小其、毎五十二太素手吉等、數十名を將、御曹司の危戦を

援、強敵長尾景春を防、其軍功解、少るを、因、この恩賞あり。

格式の四家老の次席、采邑五千貫文を賜ふべし。と仰ら。次小千代丸圖書助

豊俊を召よ、その那身の都て約束違、軍師胤智の計策、不従ふ、と、大

敵を火攻、其大功、既、舊罪、償、不足れり。あをりて、舊地を返、賜

故の如く上總國榎本の城主不做事。舊臣を召聚へて還任をせしむ。旋
 次不事甥雪代四郎與保其孫十條力二郎。十條尺八郎滿呂復五郎重時
 滿呂再太郎信重安西就少景重磯崎増松有親館持。倭儀仗朝
 經大樟村主俊故等。一同召出。七與保の苛子崎の賊難以來屢大に
 仁を幫助く。大功あり。あつて推登して兵頭不做事。十條力二尺八も尚幼少乳
 ども大母音音又兩母親曳る單節が苦肉の計をひひる。那大功の賞と
 して弟兄共少次磨君の陪堂不做事。月俸二十口。十口加増を各三十口
 賜ふ。又重時信重景重有親の戦功孰も甚く。あつて重時を
 兵頭不做事。信重景重有親の右衛門佐殿。義通。不仕へて俱小近習を
 と仰ら。又朝經俊故の御尚書恩賞を給れて其地の長不做事。少く民を憐
 れ。循吏の標を徳とす。旋次其後落船餘之七有種誼夾院豪

荆爲義成王不見参。這有種。義士八犬士。當家不仕。前より
 其幫助あり。と。甚か。と。少。と。況。僅。小。兵。を。て。月。心。圖。の。城。を。披。系
 及。大。山。道。節。が。軍。勞。不。代。り。の。最。賞。を。べ。家。前。も。亦。使。者。を。り。有
 種を幫助く。當家の爲不忠あり。あつて有種。下總葛飾の郡を新領
 五百貫文を賜ふ。舊地穂北五ヶ村と共不宜。是を館領。但房總。東
 南の一隅あり。他郷の風俗を具不知る。由。有種。幸不武藏。在。生。平。不隣
 國の珍説を撈り。利害あり。稻村へ注進。又豪前。當家の祈願
 所不做事。今より。年。毎。米。粟。百。石。を。賜。ふ。と。恩。命。あり。且。有。種。の。妻
 重戸の賢女。よく良人を諫めて。行。心。を。ら。あ。め。り。ゆ。少。召。り。と。言。さ。せ。り
 次。不。石。龜。次。國。太。越。卿。三。向。水。五。十三。太。枝。獨。結。素。手。吉。犬。江。屋。依。依。等。俱
 俱不見参を饒されて。且。恩。賞。あり。次。國。太。行。德。臨。濱。の。長。不。做。され。且。卿

云々其役せざる。又依仗五十三太素手吉の故の如く。市河西園河原在
 住して國府臺の城の事の時。船隊の頭人たるべし。月俸各五十口と賜ふ
 這四個の町人の或は大江親兵衛不従ひ或は政本大全不従て。忠あり義あり
 戦功あれば俱不武士不執立。廟宇帯刀を允らぬ。是等ハ皆新恩の
 毎るれば。賞を先不せられ。一。譜第の家臣の功ある者。恩賞ハ蛭崎十一
 郎照文を首と。抑照文ハ招賢の使を奉りて。大法師と共侶。不関の八洲を
 巡歴する始。三。京師不使。志ある者。功ある者。功ある者。職禄を
 推登して。瀧田の城の大兵頭と。秩禄も亦加増して。二千貫文を賜ふ。且
 那身の男兒を故不親族の子と。若黨直塚紀二六を女婿養嗣不
 志。女兒山鳩を妻せ。宿願も既不聞。召容させぬ。願ひの隨
 意するべし。則紀二六を召出さる。然ハ直塚紀二六。蛭崎十二郎照

章と改名して。義成主不見。參主他ハ京師不在。時大江親兵衛の帮
 助不。功あり。有功の者。功あり。瀧田の城ハ番卒の頭人。不。功あり。這他
 戦功ある勇士の毎。小林但一郎高宗印。東小六明相。荒川太郎。清英
 鳥山真人。由世ハ兵頭の上席と。饒さる。又浦安牛助。友勝。田税力。助。逸。友
 登。桐山八郎。良干。水曾。二。元。田。税。戸。賀。九。郎。逸。時。若。屋。八。郎。景。能。
 俱不。稻村の兵頭。不。功あり。又小水門目。堅宗。鱧。船。貝。六。郎。敏。治。足。東。峰。前。三
 春高。瀧田の城の兵頭。不。功あり。白濱十郎。七浦二郎。朝夷。三。孫。ハ故の如
 く。右衛門。佐殿。不。仕。へ。功あり。近習の上席。不。功あり。都々。其。秩。禄。ハ加。増
 志。あ。の。こ。各。差。あり。又。真。間。井。樞。二。郎。秋。季。繼。橋。綿。四。郎。高。梁。潤。跡。鳥。手
 古内。美容。振。照。俱。教。二。弘。經。等。ハ。舊。禄。各。一。倍。の。加。恩。あり。又。須。々。利。檀
 五郎。二。四。的。寄。舎。五。郎。ハ。既。不。恩。賞。あり。國。府。臺。の。城。不。在。番。せ。し。今。番

又召よせり。其隊下の衆兵、白銀二百枚と賜ふ。五十二太素も吉が乾見數
 十名、賜ふ。亦是不同。又範内兼四郎、後岡、猿八、漕地、喜勘、太詰
 茂佳、橋等、八月俸と加増あり。且白銀各二十枚を賜ふ。大阪下野大江親
 兵衛、執達より、他等、八拜見せざる者、るべし。這餘諸軍兵、都て恩賞、漏る
 者、る。最後、致仕の老臣、杉倉木曾、元堀内、藏人、貞行、并、小森
 篤宗、浦安、乘勝を召よせり。其兒子等、の軍功の賞として、氏元、貞行、や
 養老料、美田、各五百貫文、衛士、兵馬、各三百貫文を賜ふ。と仰らる。
 又東西和睦の祝、壽と、京、えを参りぬ。上甘理、墨之、弘世の使者、天津
 九之四郎、員明、及、莖野、阿弥、七、椿村、の、隆、父、次、團、太、等、小、就、て、來、ぬ、係、今、井
 河原の木、八、安房、上、總、下、總、等、村、長、故、老、等、小、至、る、まで、東西、と、賜、ふ
 勘、ら、む。其、後、大、禪、師、を、召、よ、せ、り。義、成、み、つ、ら、其、年、來、の、大、功、德、と、譽、言、て

宋版の一切、經と唐の留本、立、が、画、に、る。白、衣、觀、音、の、大、懸、幅、と、沈、香、十
 斤、を、賜、ふ。又、妙、真、音、音、曳、多、單、節、の、共、女、流、る、れ、が、別、席、小、召、よ、せ、り。義
 成、み、つ、ら、其、功、を、譽、言、く。有、名、の、短、刀、各、一、口、夏、冬、の、衣、各、二、襲、金、子、各、一
 百、兩、を、賜、り、け、り。然、ら、ば、這、君、恩、小、預、る、者、孰、く、拜、舞、せ、る、を、終、ひ、の、聲、耳、内、外、小
 充、く。被、に、連、々、退、る、と、て、一、霎、時、の、推、も、介、ら、れ、ぬ。圍、守、の、慈、善、と、其、宣、言、を
 仰、り、感、せ、さ、る、り、り、け、り。愆、而、義、成、主、に、又、大、禪、師、と、八、大、士、等、を、召、合、
 せて、宣、ふ、や、う。御、高、小、朝、廷、より、我、姉、君、を、神、小、做、さ、れ、り。賜、り、ら、る、勅、額、を、我
 立、息、小、富、山、の、岳、山、屋、小、石、の、禿、舎、を、造、り、建、て、藏、め、り、て、神、體、小、做、さ、れ、り。且
 岳、山、屋、の、前、小、石、の、岳、扉、門、を、建、て、勅、額、の、模、寫、字、を、掛、べ、り。這、美、の、禪、師、と
 八、大、士、等、奉、終、り、て、早、く、石、工、小、課、く。等、閑、小、去、り、て、只、清、淨、を、上、目、と、せ、り。と
 言、可、寧、小、仰、ま、れ、ば、大、大、士、等、兼、り、て、其、次、の、日、より、作、事、を、起、し、て、西



ノト神ノ舞

批四ノ五

ノト神ノ舞



八代九代

ノト神ノ舞

原

工等といふ程ほど約莫およそ二十日許ばかり中。風かぜく落成たふさ成なりをりければ、則すなはち勅額しやくがくと神かみ
 體たい中ちゆうて。洲崎明神すまきあきのかみの神人かみ等ら祝詞いのちを誦よむ。法樂ほふがくを献けんり。大禪師だぜんし等ら
 師しあ。大山寺おほやまのてら及延命寺えんめいのてらの衆徒しゆと讀經よみきやうを遷座せんざの作法さくしやうを遂ついにられ久遠くゑん
 近ちかの男女おとこ山路やまぢを厭いとむ。詣まがる者ものをままらりける。有ある程ほど上總かみづみなる故ゆゑの椎すい
 津つの城主ぢゆうしゆ真里谷信昭まはりやののぶあきの嫡子ちやくし柳丸やなぎまる年とし十一歳じふいちさい中ちゆう。初はつて稻村いなむらの参勤さんきんの老黨らうたう
 鞠谷まりや毛け大おほ丈ぢゆう綺妙きせう等ら伴當ばんたうなり。去き稔ね父ちち信昭のぶあきの没後ぼつご家臣かぢん等ら確執かくしやくの事ことあり
 参勤さんきん頗さかん延引えんいん不及おとふと真里谷まはりやの里見さとみの通家とうかなるに權けん且かつ稻村いなむらの城内ぢゆうぢゆう
 留とどめらる。柳丸やなぎまる見参みさんの日ひに黄金こがね五枚ごまいと土宜とちを呈まへして執とつとを義成よしなり則すなはち柳丸やなぎまる
 大おほ刀やいばを賜たまふ。其その頃ころ又また義成よしなりの主ぬしハ八やち大おほ士し四し家け老らう等らを召より取とり合あはて八やち個この息女めかけ
 達たちを婚こ姻いんの一ひと美みあり。开ひらき又また本ほん回かい下げの編あみ解か分ぶんるを聽きねがし。

南總里見八犬傳第九輯卷之五十終

